

東京都橋梁長寿命化検討委員会の答申について

高木千太郎
(東京都建設局)

1. はじめに

橋梁は、国民生活を支える重要な都市基盤施設として種々の機能を果たすとともに、都市景観を創り出す重要なランドマークとなっている。橋梁は、永久に朽ち果てることの無い構造物のように捉える考えもあったが、近年の事例からその考え方は変わり、日々の管理、定期的に行われる点検や健全度診断、それらに基づいて行われる処置によって、その寿命は大きく変わる。例えば、2007年、国内で発生した鋼トラス橋の破断事故、2008年10月に発生した千葉県君津市のコンクリートアーチ橋吊材破断事故など、日々の管理が原因で寿命を縮めている事例も発生している。このように厳しい状況にある東京都における橋梁の現状は、東京オリンピックから高度成長期に集中的に建設した結果、十数年後には、建設後50年を超える橋梁を対象とした架け替えピークが発生すると予測している。

このようなことから、東京都は、2008年1月30日に『東京都橋梁長寿命化検討委員会』を設置し、これら喫緊の課題を解決し、安全・安心を確保する予防保全型管理へ転換を図ることとした。ここでは、4月23日に本委員会から東京都に答申された概要とその後について紹介するものである。

2. 東京都橋梁長寿命化検討委員会と答申について

(1) 東京都橋梁長寿命化検討委員会とは

東京都橋梁長寿命化検討委員会は、国が新たな事業として2007年度に設けた「橋梁長寿命化修繕計画策定事業」に関連し、東京都の課題、安全・安心を確保

する予防保全型管理への転換、架け替えピークの平準化、橋梁関連コストの縮減等について審議、検討を行うため、外部の有識者を入れて設置された委員会である。当委員会は、これまで東京都が材料別橋梁の耐久性向上策等の審議を行うために各材料別の橋梁耐久性向上検討委員会を設置し、提言された内容を基本にして、三木千壽（東京工業大学教授）委員長を中心に短期間、精力的に審議された。前述の材料別に設置された委員会は、図1に示したが、第一は、2003年度に設置された鋼橋耐久性向上検討委員会、その後のプレストレストコンクリート橋耐久性向上検討委員会、鉄筋コンクリート橋耐久性向上検討委員会およびアセットマネジメントアドバイザー会議である。いずれの委員会も都の現状を踏まえて、橋梁の耐久性を向上させる提案を具体的に示している。

次に、東京都が予防保全型管理への転換等を効率的に進めるために策定中の管理橋梁を対象とした中・長期計画のベースとなっている東京都橋梁長寿命化検討委員会答申について、その概要について述べる。

(2) 答申「橋梁の戦略的予防保全型管理に向けて」の概要について

本答申は、①管理している橋梁の現状と課題、②予防保全型管理に向けて、③管理に関する中・長期計画の策定方針、④予防保全型管理および長寿命化の効果、⑤今後の課題の五つに分類され、橋梁管理の現状から、将来に向けた新たな施策、今後の課題まで幅広く答申されている。

本答申の中で、最も重要な予防保全型管理に向けた基本方針について説明する。第一は、適切な維持管理